

今週のメニュー

■ [トピックス](#)

◇樹脂窓の普及に期待！

—高性能断熱樹脂窓がエコプロダクツ大賞受賞—

■ [随想](#)

◇古代ヤマトの遠景（84）—【歴代天皇と伊勢神宮（2）】—

木下 清隆

■ [編集後記](#)■ [トピックス](#)

◇樹脂窓の普及に期待！

—高性能断熱樹脂窓がエコプロダクツ大賞受賞—

寒冷地の北海道ではあたりまえの樹脂窓ですが、全国レベルでの普及率はまだまだ低く、地球温暖化抑制、節電、省エネ推進の観点からも全国展開が望まれています。昨年末に樹脂窓製品がエコプロダクツ大賞を受賞されましたので、今年は普及の大きな転機となることを期待しご紹介いたします。

まず、「エコプロダクツ大賞」は、環境負荷の低減に配慮したすぐれた製品・サービス（エコプロダクツ）を表彰することを通じて、情報を需要者サイドに広く伝えるとともに、供給者である企業等の取り組みを支援することで、エコプロダクツのさらなる普及を図ることを目的に2004年創設され、今回で10回目となります。エコプロダクツ大賞推進協議会（会員一般財団法人 地球・人間環境フォーラム、一般社団法人 産業環境管理協会、公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団、一般社団法人 日本有機資源協会）が、この大賞を実施し、受賞した製品・サービスの普及促進を図るための広報活動を行っています。

この賞は、「エコプロダクツ部門」と「エコサービス部門」で構成されますが、今回は「エコプロダクツ部門」76件、「エコサービス部門」16件のあわせて92件の応募があり審査の結果、22件が表彰となりました。このエコプロダクツ部門のエコプロダクツ大賞推進協議会会長賞（優秀賞）として、YKK AP 株式会社の高性能樹脂窓「APW330」が受賞されました。

この受賞製品の特徴は、国内最高レベルの断熱性能を有する戸建て住宅用の樹脂窓（樹脂フレームとLow-E 複層ガラスの組み合わせ）で、小エネ（ローエネ）を推進し、快適な暮らしを目指した商品。その性能は、樹脂フレーム＋Low-E 複層ガラスの組み合わせで熱貫流率 1.90W/(m2K) を実現。また APW330 真空トリプル仕様では国内最高レベルの熱貫流率 1.09W/(m2K) を達成します。さらに、寒冷地だけでなく温暖地まで全国で使用でき、新築住宅及び既存住宅にも対応可能な仕様を用意しているとのこと。



エコプロダクツ展
YKK AP ブース APW330 展示

受賞の理由を審査員のコメントから以下に紹介します。「断熱性に優れた樹脂フレームと高性能な真空トリプルガラスを組み込んだ高性能樹脂サッシである。冷暖房機の使用を減らすことで、省エネルギーに貢献するほか、ガラス部分の結露防止効果、窓際で感じる冷輻射を軽減する機能を備えている。断熱性能は一般的なアルミ窓の約4倍、アルミ樹脂複合窓の約2倍を実現し、窓の熱貫流率は国内最高クラスで、3枚重ねのトリプルガラスでも高い日射取得率を確保するなど、断熱性能と日射取得のバランスが取れている。独自のフレーム・ガラス接着技術によりフレーム強度が高まりスリム化を実現したことで、原材料（樹脂とアルミの重量）を重量比で34%～25%削減している。一般的なアルミ複層ガラスの窓に比べ冷暖房設備の消費エネルギーを約25%、年間のCO2排出量も約25%削減するなど優れたエコプロダクトである。」

樹脂窓は、上記コメントにもある省エネ、結露抑制のほかに、家全体の温度差を小さくすることができることから、冬場、リビングから風呂場へ移動する際の急激な温度差による血圧急変などのヒートショックの予防に役立ちます。コールドドラフト（窓辺で冷やされた空気が、暖房によって下降気流となり足元を駆け抜ける現象）による脳溢血、冷え性の悪化の予防に効果があり、さらに防音・遮音性能が高いことも特徴で、騒音によるストレスからも解放され、健康的で快適な住まいを提供できます。

今後、新築或は増改築をご予定の方がおられましたら、この機会にぜひ樹脂窓をご検討いただければと思います。

■ 随想

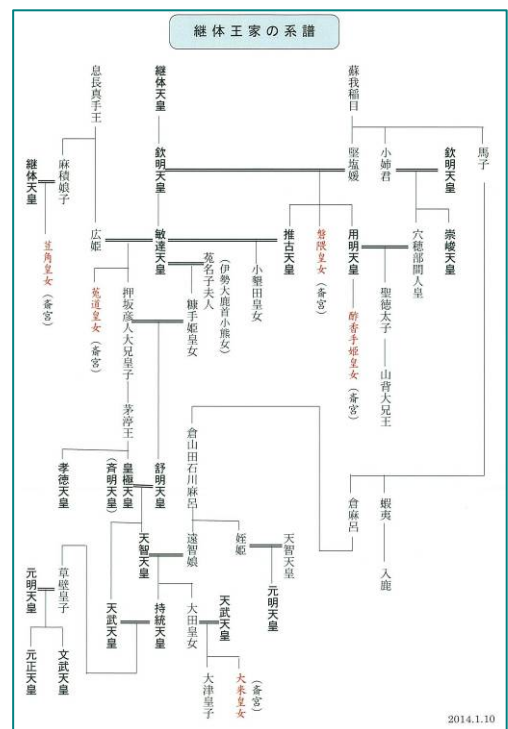
◇古代ヤマトの遠景（84）－【歴代天皇と伊勢神宮（2）】－

木下 清隆

3) 欽明天皇

継体天皇の次は、安閑天皇、宣化天皇と続くが、両天皇は先にも述べたように、蘇我氏によって殺害されたと、ここでは想定していることから、斎宮の派遣は当然あり得ない。ところが、記紀においてもこの両天皇の時代における、斎宮派遣の記事は欠落しており、このようなことから、これら天皇の存在には疑問が持たれることになる。

継体天皇に続く欽明天皇も先帝に倣って、^{いはくまの}磐^{ひめみこ}隈皇女を伊勢神宮へ遣わしているが、この場合も「初め伊勢大神に侍へ祀る。後に皇子茨城に姪されて解けぬ」と記されており、短期間だったと考えられる。欽明天皇の場合、このような伊勢大神への祭祀を継体天皇から受け継ぐと同時に、初代倭王の出身地とみられる出雲への敬意表明に尽力したこと、更にこの倭王に「櫛玉饒速日尊」なる諡号を贈ったことは、特筆すべきことであった。このことは先の(79)【[櫛玉命の祭祀](#)】に詳しく述べたので、参照願いたい。



継体王家の系譜：クリックで拡大

4) 敏達天皇

敏達朝における斎宮は、菟道皇女うじになっているが、この女性も「池辺皇子に姪されぬ。事顕れて解けぬ。」と記されており、短期間の滞在であったことがわかる。この天皇の最大の業績は、先にも述べたように、初代倭王に対し「天照国照彦火明櫛玉饒速日尊」なる諡号を贈ったことで、詳細は、[\(80\)【敏達天皇】](#)で説明した。この諡号に基づき「日神」という略称が生まれたと考えられるが、そのことについては[\(82\)【女神天照大神誕生】](#)で触れた。このように敏達天皇によって初代倭王への回帰現象はピークを迎えるが、彼のこのような情念は当然、伊勢への並々ならぬ入れ込みとなって現れた。それは、前に伊勢氏・度会氏の検討をしたときに述べた〔[\(21\)【伊勢氏と天皇家】](#)〕ように、伊勢氏の女が敏達天皇の妃として迎え入れられていることである。敏達紀では妃とは記されていないが、ここでは分かり易く妃としておきたい。即ち、伊勢大鹿首いせおほかの小熊おびとをぐまの女うなこのおほとじ、菟名子夫人うねめである。采女あらのひめみことして宮廷に仕えていたらしい。敏達天皇とこの夫人との間に糠手姫皇女あらのひめみこが生まれるが、この皇女おしさかのひこひとおほえみこと押坂彦人大兄皇子とから舒明天皇が生まれる。一地方の采女上がりの女性が後の天皇の生母となるなどは、破天荒なことである。

舒明天皇の誕生の経緯は、これはこれで一大ドラマであるが、やはり敏達天皇あつての舒明天皇誕生といえよう。ではこの敏達天皇と伊勢氏を結びつけたのは誰なのか。そのことはどこにも明示されていないが、恐らく息長氏と考えられる。継体朝ささげ皇女おきながのまてのおほきみと共に伊勢へ下った息長間手王は、伊勢氏の出自の話を聞き、系譜も持ち帰り、皇子時代の敏達天皇に伝えたのではなかろうか。当然、倭王家にも何らかの伝承・記録は残されていたはずである。息長氏の情報おしながのの確かなことを知ると、ここから皇子の歴史探訪が始まったと想定される。そして、この皇子は息長氏の広姫を娶り、自分が王位を継承すると広姫を皇后にした。



息長陵：滋賀県米原市村居田にある
(敏達天皇皇后息長広姫陵)

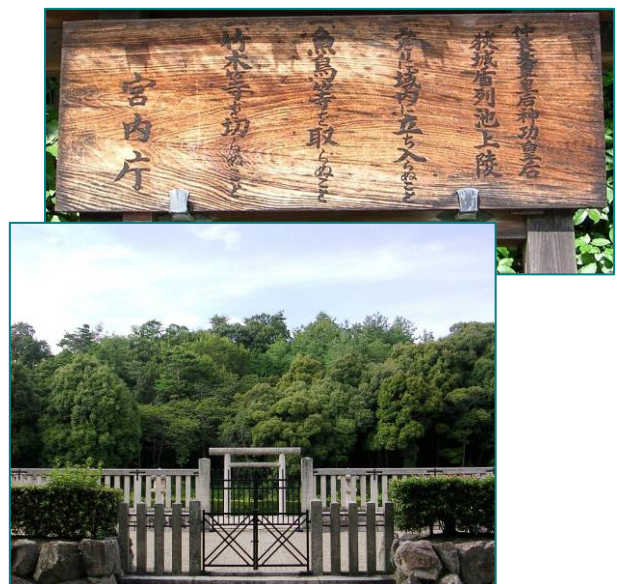
敏達天皇は、このように息長氏の広姫を最初に皇后にしたが、この二人おしさかのひこひとから押坂彦人大兄皇子おほえみこが生まれた。舒明天皇の父親である。更に茅渟王ちぬを経て皇極天皇が誕生する。その後、広姫が亡くなると豊御食炊屋姫とよみけかしきやひめ（後の推古天皇）を皇后に立てたが、この系統からは天皇は出ていない。先の舒明天皇とこの皇極天皇との間に生まれたのが天智・天武天皇である。このような流れを見ると、その後の天皇家は伊勢氏と息長氏との直系ということになる。このような皇統の誕生に、息長氏の果たした役割が如何に大きかったかが良く分かる。

息長氏は湖北の豪族ではあるが、先に紹介したように同地の豪族坂田氏と共にその女を継体天皇の妃に献じている。また、息長氏は坂田氏にはとても及ばないような弱小豪族で

あったことから、継体天皇の西国制圧で活躍した記録など一切残されていない。その彼等が、歴史の表舞台に突然のように躍り出て来ることになる。その理由は、先に述べたように、天皇家に対する伊勢氏の紹介以外には考えられない。そのことによって敏達天皇の「初代倭王への回帰現象」に拍車をかけた。敏達紀の冒頭に、「天皇、仏法を信ぜずして、文史を愛でたもう」と記されていることの裏付けであるといえよう。このようにして息長氏は舒明天皇の母方の祖となった。

しかし、彼等の系譜はどこから見ても二流か三流である。この見栄えのしない系譜をどのようにしてもっともらしく見せるか、これが記紀をまとめた編纂者達の悩みの種だったに違いない。ところが彼等はとんでもないことを思いつく。他の系譜との接合である。木に竹を継ぐような話であるが、まさにそのようなアクロバットの手法を編み出して箔付けをした。簡単に説明すれば、創作した神功皇后の出自を「息長」として、湖北の息長氏をあたかもこの神功皇后の後裔あるかのように装ったということである。ところがこの皇后は、或る一人の女性がモデルとなっていると考えられ、話は甚だ複雑なものになっている。

要するに、この問題の詳細には、神功皇后の誕生秘話と山背南部豪族の系譜とが、結び付けられていると考えられ、更にその豪族は木津川流域の豪族との関連性も考えられるのである。この地域には椿井大塚山古墳と称される巨大前方後円墳が発掘されており、その被葬者と神功皇后のモデルとなった女性とが何らかの関係があるのではないかと想定されるのである。この古墳は箸墓古墳と殆ど同時期に築造されたとされ、三十数面の銅鏡が出土したことで有名な古墳である。このように、壮大な歴史的背景が存在すると考えられ興味は尽きないが、息長氏問題のこれ以上の説明は複雑であり、長大となるため割愛する。



神功皇后陵：大和西大寺駅の近くにある
(佐紀古墳群中最大規模)

なお、先の説明で省いた舒明天皇誕生の経緯であるが、推古天皇が亡くなる時、後継天皇を明確にしなかったために、田村皇子（舒明天皇）と山背大兄王との間で熾烈な後継争いが起きた。紆余曲折はあったが蘇我蝦夷の判断で舒明天皇に決まった、と書紀には記されている。このとき舒明天皇の出自が、単なる地方豪族に過ぎない伊勢氏であり、息長氏であると認識されていたとすれば、とても聖徳太子の子である山背大兄王には太刀打ち出来なかったはずである。しかし、伊勢氏は初代倭王につながる名門であり、息長氏は皇后を出した名族となれば、話は違って来る。このことが結果的に皇位継承争いの、大きな決め手になったはずである。

(つづく)

この「古代ヤマトの遠景」に対し、ご意見・ご感想を頂ければ幸いです。>> [\(筆者\)](#)
「古代ヤマトの遠景」: [バックナンバー](#)

■ 編集後記

パラリンピックが始まり、既に2日間で日本は狩野選手が金メダル2個を獲得しました。おめでとうございます。ちょっと話を夏季のパラリンピックに移しメダル獲得の多い国を調べると、2004年のアテネ、2008年の北京、2012年のロンドンと中国が圧倒的に強く、北京の後のロンドンでは金銀銅をそれぞれ95個、71個、65個の計231個獲得しており、この数には圧倒されます（ちなみに日本は計16個です）。中国では全土の各省などに1か所以上の障害者スポーツ総合施設が設置されており、今後さらに1000か所以上も建設予定だそうです。東京オリンピックでは日本はどの位の数のメダルが獲得できるかわかりませんが、スポーツではありますが福祉国家の仲間入りがしたいものです。（ももった）

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp